

国の重要無形文化財保持者に指定

能楽大倉流小鼓方 上田敦史さん

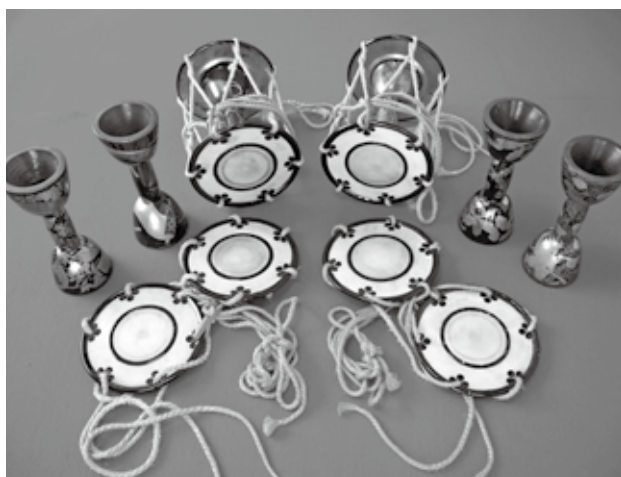


丹波が舞台の新作能を キーワードは「挑戦」

能楽大倉流小鼓方の上田敦史さんは7月21日、国の重要無形文化財に認定されている能楽を高度に体现できるものとして、国の重要無形文化財総合認定保持者に指定されました。

上田さんに指定の喜びと今後の抱負を語ってもらいました。

連絡先 ☎ / ☎ 0795 - 71 - 5204 (上田)



知ってもらえる喜び

40歳前半の比較的若い年齢で指定を受けられたこと、本当に光栄に思います。子どもの頃から舞台に立ち始め、本格的に小鼓の修行を始めてから27年。一生修行の身ですが、尚一層励みたいと思います。

指定を受けて何より嬉しいのは、たくさんの人に能楽や能楽師上田敦史について知ってもらえたことです。土地柄が「能楽」というと「農学」と思われる人が多く、説明に困ることも。この機に能楽に興味をもってもらえるとうれしいですね。

能楽のなじむまち丹波

私は3年前に、豊中市から丹波市に移住してきました。豊かな自然の中で、妻や幼い子どもと暮らしたいと考えたからです。また、「丹波猿楽」に縁のある土地であることも一つの理由でした。

丹波猿楽は能楽の元になった猿楽の一つで、中世に大変栄えたものです。移住してから、市内の複数の神社でその流れをくむ翁三番叟が行われていると知ったときは、感激しました。舞台となる神社への信仰もとても篤く、能楽がなじむ土地柄だと肌で感じています。

新しい取り組みにやりがい

現在は、地元新聞社のカルチャークラスの講師や個人レッスンをしたり、市内の祭りやイベントで能楽を披露したりしています。能楽文化を広めるため、市内の小・中学校で能楽教室の開催、地元料亭で能楽を披露する催しも行いました。

丹波では、新しい取り組みに対して多くの人が協力くださり、形になっていきます。大阪が拠点だった頃には考えられないことです。感謝とともに、とてもやりがいを感じています。

丹波が舞台の新作能に挑む

今後は、能楽小鼓を習う人が増えて、稽古の成果を披露する場も多く設けられればいいです。能楽文化が再び根付き、鼓の音色が聞こえるまちになればよいですね。また、生徒さんと一緒に、丹波の物語など題材に、新作の能・狂言にも挑戦したいです。子どもたちと披露公演ができれば素敵ですね。

丹波に能楽文化を根付かせ、市内外から能楽を見に訪れる人が増えるようにしたいです。自身の修行はもちろん、文化の発展のためにますます励みたいと思います。